



鴻巣市長 並木 正年氏

市長のメッセージ

鴻巣市は、江戸時代から約400年の伝統を誇る「ひな人形のまち」、全国有数の「花のまち」として知られる水と豊かな自然に恵まれた人口約12万人の都市です。

本市では、市名の由来の一つであるコウノトリをシンボルとした「人にも生きものにもやさしいコウノトリの里 こうのす」の実現を目指し、多くの生きものと共存する環境にやさしいまちづくりを推進しています。

今後も、豊かな自然環境を守りながらまちのにぎわい創出を図り、市民の皆さんとともに、誰一人取り残されない持続可能なまちを目指して各種事業に取り組んでまいります。

はじめに

鴻巣市は、埼玉県のほぼ中央、都心から50km圏内に位置し、荒川が流れる南西部周辺には田園地帯が広がるなど、豊かな自然に恵まれている。

1954年に1町5村が合併して埼玉県で17番目の市として誕生して以来、県央地域の中核都市として発展、2005年には吹上町、川里町と合併して現在の姿となり、人口は約12万人となっている。江戸時代には中山道の宿場町として賑わい、交通の要衝として発展した。現在でも鉄道・高速道路を身近に利用でき、交通の利便性が高い。

鴻巣市は「ひな人形のまち」、「花のまち」として知られている。鴻巣市のひな人形は約400年の歴史がある。明治時代には多くの業者・職人が鴻巣に集まって人形づくりが盛んに行われ、貴重な地場産業として現在に伝えられている。毎年春には「鴻巣びっくりひな祭り」が開催され、市内外から多くの人を訪れる。

花の栽培は戦後行われるようになり、プリムラ、サルビア、マリーゴールドは日本有数の出荷量を誇る。毎年5月に「こうのす花まつり」が開催され、「日本一広いポピー畑」でもあるメイン会場に多くの人を訪れる。

最近では、市内を流れる荒川の川幅が日本一広いことにちなんで、「こうのす川幅うどん」が鴻巣グルメとして人気だ。鴻巣を訪れた際には是非味わってみたい。

✨ 本年5月に「SDGs未来都市」に選定

市内にはコウノトリ伝説が残る「鴻神社」があるなど、コウノトリは市名の由来の一つとも言われている。コウノトリ伝説では、コウノトリが棲む大きな木のある村が日照りで困っていたところ、巣の中の卵を襲おうとしたへびをコウノトリが追い払い、その後日照りが終わって村人が助かった、と伝わる。鴻巣市では、従来からコウノトリをシンボルとした自然豊かな環境づくりを推進しており、2030年のあるべき姿を「人にも生きものにもやさしいコウノトリの里 こうのす」としてSDGsのまちづくりを推進、今年5月に「SDGs未来都市」に選定された。「SDGs未来都市」は、自治体によるSDGsの取り組みを推進するため、内閣府が2018年度に創設した制度である。

経済面ではロゴマークを地元産品に表示することなどにより、「コウノトリと創るネットワークとにぎわいのあるまち」づくりを目指している。社会面では、「コウノトリと描くライフデザイン」を掲げ、少子化や地域の担い手不足への対応、子どもの学びの充実等の取り組みを行い、環境面では、「コウノトリとともに生きる自然豊かな環境づくり」を目指した取り組みを推進している。



SDGs未来都市KONOSUロゴマーク

鴻巣市概要

人口(2023年11月1日現在)	117,731人
世帯数(同上)	52,849世帯
平均年齢(2023年1月1日現在)	48.9歳
面積	67.44km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	172所
製造品出荷額等(同上)	2,249.9億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	642店
商品販売額(同上)	1,433.8億円
公共下水道普及率	78.2%
舗装率	67.3%

資料:「令和4年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR高崎線 鴻巣駅、北鴻巣駅、吹上駅
- 圏央道 桶川加納ICから市役所まで約8km
- 関越自動車道 東松山ICから市役所まで約15km
- 東北自動車道 加須ICから市役所まで約14km

☀️ 「天空の里」を2022年1月にオープン

経済・社会・環境が調和したコウノトリの里づくりを推進するため、市は「天空の里」を2022年1月にオープンさせた。現在、「空(オス)」と「花(メス)」の2羽のつがいのコウノトリ(表紙写真)が飼育されている。ゆくゆくは繁殖させた鴻巣生まれのコウノトリを放鳥し、野生復帰させることを目指している。

コウノトリは、水辺の生態系ピラミッドの頂点に立つ生き物で、コウノトリが生きていくためには、たくさんの生き物が生息できる「豊かな自然」が必要である。コウノトリが棲める環境は、その地域に住む人にとっても安全・安心な住みやすい環境であることの証であり、市ではコウノトリを「豊かな生態系のシンボル」として、人にも生きものにもやさしいまちづくりを進めている。

☀️ 道の駅の整備

道の駅は、「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの機能を併せ持つ施設であり、多くの来訪者で賑わっている。市では、地域産業の振興と地方創生を実現するための拠点として道の駅を整備し、道の駅を核に地域全体の魅力を向上させることを目指して事業を進めている。

計画地は国道17号熊谷バイパスの沿道西側であり、国道が分岐し、将来的に上尾道路が接道する交通結節点に位置し、県央エリアでも有数のポテンシャルを有する。

2020年度に、熊谷バイパスの道路管理者である



道の駅計画地

国土交通省大宮国道事務所と一体型による道の駅整備に関する協定を締結し、2021年度に用地取得を完了、2022年度には盛土造成工事を終え、現在は施設設計が進められている。

また、「持続可能な道の駅」を掲げるなど、オープン後の施設運営を重視しており、施設整備に先立ち将来的な施設の管理運営者として株式会社ファーマーズ・フォレストを選定することで、施設の設計段階から民間の運営ノウハウを取り入れるとともに、市内の農業生産者や商工業者と十分なコミュニケーションを図りながら開業準備を進めていく方針だ。

市では、道の駅が持つ「地域外から活力を呼び込む力」と「地域の元気を創る力」が、「地域産業発展のエンジン」として大きな役割を果たすことを期待しており、道の駅を核として、地域産業の振興とにぎわいの創出を地域全体に拡大させることを目指している。(太田富雄)